

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第29号 発行日2005年5月24日

### Contents

第4回通常総会	1
ティボリを訪問して	2
霞が関情報、横浜観光	3
観光人国紀(高松市)	4
テニスの楽しみ 上	5
JN4年の歩み	6
JN4年の歩み	7
観光研究会報告	8
パワーワウ報告、COLUMN	9
暮らしと観光(美味しい話)	10
提言します 観光と税金	11
花さかシニア歓迎、会員名簿	12



源平古戦場、なかでも那須与一が海上に浮かぶ平家の軍船の扇を射抜いたという故事で有名な屋島。かつては島で、屋根のような島、ということまで名がついた。この溶岩台地は世界最大級という。(高松市提供)

### 巻頭言

## 大九州圏フォーラムや日独交流など多彩に 第4回通常総会で平成17年度事業計画、予算を決定へ 第一次目標の個人会員300名と団体100法人化を実現

JAPAN NOW観光情報協会は、5月24日午後3時から東京大手町の「KKRホテル東京」で平成17年度の通常会員総会及び講演会を開く。

総会では、9月に福岡市で「大九州圏フォーラム」を開き、各分野の専門家が講師になって来年3月開港する北九州空港、九州新幹線の早期全線開業、都市防災、九州経済と観光について現状を分析し、将来を展望するイベントの実施を提案。さらに日独市長交流を開催する計画も示す。

総会では平成17年度事業計画や予算案の承認も受ける。発足以来、満4年となるJN協会の個人会員は300名、団体会員は100法人化を実現したが、会員との交流が大きな課題である。

### JN協会団体会員との交流を強化 平成17年度の事業計画

JAPAN NOW観光情報協会の平成17年度事業計画では、個人、団体会員の増強策や団体会員との交流強化、支部の新設を進める。都市、観光、環境に関連したイベントや旅行・国土交通・都市再生など各研究会、講演会、セミナーを開催し見学会・試乗会、都市の国際交流などを行う。

主な活動計画は下記の通り。

1)「通常会員総会」：理事の増員、定款の一部変更、平成17年度事業計画、予算案などを審議し決定する。新年度の理事会は6月、9月、12月及び来年3月に開催予定。

2)「団体会員との懇談会」：団体会員は100法人を超えたが、さらに当協会が活動目的に掲げている「都市再生・観光振興・環境保全」に賛同する法人会員を対象に増強する。また、団体会員への「NPO会員証」の発行やJN協会の理事長、顧問、副理事長と企業担当者との業種別懇談会を開き、会員側の意見を聞いて、団体会員向けの新規事業を行う。

3)「支部の開設」：新宿、北陸、立教大学、九州、中部、神戸に開設され、新年度は四国、東北、北海道支部の新設を進め、全国展開する。

4)「講演会・シンポ」：9月には福岡市で、「大九州圏フォーラム」を開く。

5)「研究会のセミナー」：観光研究会セミナーを行う。国土交通、エネルギー研究会のセミナーも計画している。

6)「見学会・試乗会」：8月24日開業する予定の『つくばエクスプレス』(秋葉原～つくば間58キロ)の見学会を開く。リニアモーターカーの試乗会も随時。

7)「都市の国際交流」：来年初めに日本とドイツ、またはEU(欧州連合)域内国との国際都市交流会を計画。会場は東京やJN協会支部のある都市を予定。

8)「情報紙の紙面改革」：昨年末から文字を大きくし、写真も多用するなど改革を進め好評。さらに改善する。ホームページも拡充。

## ティボリ市を訪問して

新湊市議会副議長 新中 孝子

2005年3月23日(水)、富山県新湊市議会自民党議員会員の橋本氏、中川氏、新中の3人は、ティボリ市を訪問した。



昨年10月開催された「新湊産業海鮮まつり」に、イタリアのティボリ市長が来訪された折、「素晴らしい世界遺産のあるティボリ市に是非来ていただきたい。」との挨拶もあり、「行って見よう!!」「百聞は一見に如かず」と出発することにした。

成田空港からローマ空港までの所要時間は13時間弱、車でティボリ市まで移動時間が約1時間、「ティボリ市と新湊はやはり遠いなあ」と思ったものだ。

3月24日(木)ティボリ市内にある温泉施設を見学する。温泉といっても医療が主体で施設内には、呼吸器系や美容用の吸入器が並べてあり、たくさんの方が利用されていた。夕方には、ティボリ市役所を訪問、ティボリ市長、ティボリ市議会幹部の方々と懇談する。市長を見ての第一印象、若い!! ジーパンでノーネクタイ、セーターという姿で我々を迎えていただく。「これでイイ!!これがイイ!!」と私は思った。



ティボリ市章の下、前列真ん中が筆者。その後ろにティボリ市長

分家新湊市長からのメッセージをティボリ市長へ渡す。幹部の方々と交流の中で、ティボリ市に小学校が竣工し、その式典に新湊産業海鮮まつり開会式セレモニーで行われた

テープカットに参加したことを思い出し、これを取り入れたとのこと。「ここらあたりも良い。面白いと思うことは即実行。イネ!!」

3月25日(金)、ユネスコ世界遺産を視察。

ヴィッラ・アドリアーナ

16年をかけて造営した別荘、大自然と遺跡の交差する素晴らしい物である。莫大な敷地には宮殿や浴場、劇場、そして人工の池や島までも備えられている。

ヴィッラ・デステ

緑豊かな庭園の中に無数の滝と泉が配され、オルガンを奏でる噴水をはじめ、趣向をこらした500もの噴水が水を吹きあげる。東京ドームと、ほぼ同じ面積を有しているとのこと。

3月26日(土)、ローマ市内を視察する。

ローマ最大の噴水であるトレヴィの泉、噴水に背を向けてコインを投げる。ふたたびローマを訪れることができるとのこと、橋本氏と私はコインを投じる。

中川氏は何年前かに投じたので、ふたたびくることが出来たという。ローマを訪れる人は絶えないことだろう。



ローマの東約30km。田園地帯を見下ろす丘陵に位置するティボリ市、穏やかな気候と豊かな自然に恵まれたティボリ市は遠いと感じたが、機会があれば、また訪れてみたい。古い建物を建て換えるのではなく、古さを生かして補修していくとの事らしい。オレンジが実り、鳥がさえずり、ミモザの花が咲き乱れているティボリ市。自然環境に恵まれたこの地。

今回の視察では、大島悦子氏(ジャパン・イタリア・ドットコム)と一緒にだったので、会話には困らず安心して過ごせた。

ありがとうございました。

## 東京、京都に高い関心 イタリア人の訪日調査

ジャパン・イタリア・ドットコム(本社・ミラノ。大島悦子代表)は、日本航空ミラノ支店の協力などにより今年2月にイタリア人を対象に訪日旅行への関心、希望訪問地などの調査を実施した。回答者は159人。

その結果、「日本のどの都市を訪れたいか」の質問に対して東京62%、京都41%と、この両都市訪問希望が多かった。以下は、大阪、札幌、奈良、広島、長崎、神戸、鎌倉などだった。

日本旅行で関心のある分野は、「神社仏閣」が80%、庭園67%、建築57%、温泉53%で、ほかに都市観光、民芸、自然、テクノロジー、漫画に人気がある。イタリアは、世界遺産が多く、食べ物も豊富ということで日本からの旅行者が多いが、イタリアからの訪日客は年間3万人台と少ない。

しかし、近年は日本文化への関心が高まっている。

JN協会は17年度、『観光立国』のほか『国土交通』『エネルギー問題』などの研究会、見学会を計画しています。団体会員、個人会員の皆様のご参加を歓迎します。



## 東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

### 外国人旅行者600万人突破

国土交通省の発表によると、2004年に日本を訪れた外国人旅行者は前年比17.9%増の614万3千人と初めて600万人を突破した。過去最高は02年の523万9千人だった。また、日本人の海外への観光客は04年は1650万人となり、前年より増えた。外国人観光客が増えたのは中国人団体客へのビザ発給地域が9月に拡大されたことから1-10月までに前年に比べて42%増となり大幅に増えたことが大きい。台湾も同じ時期に42%増と増えた。

国土交通省は2010年に外国人観光客1000万人を目標に進めているビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）の効果が出了、と分析している。

一方、日本旅行業協会（新町光示会長）は日本人の外国への観光客を07年に2000万人にする運動をしており、05年には1750万人と予測し、目標を達成させる、と言っている。

### 反日感情の悪化でキャンセルが相次ぐ

中国各地での反日デモで中国行きの旅行者やビジネス客のキャンセルが相次いだ。全日空では4月11～15日で一日平均千件のキャンセルが出た。同社の4月の中国向け予約は11万人。影響は大きい。日本航空も4月9～18日までに4～5月の中国行きのうち約5500人分のキャンセルを受けた。

また、国土交通省によると中国からの旅行者は昨年3～5割、韓国からは2割減るとの見通しを発表している。

### 米国への観光客は過去最高を予測

米商務省は5月6日に05年に米国を訪れる外国人観光客が過去最高の5200万人に達する見通しを発表した。これまではテロが発生する前の2000年の5100万人である。

### 日豪の観光相互交流を100万人に 「来年は両国交流年」政府間で合意

日本とオーストラリア政府による日豪観光交流促進協議会は5月9日、高山市で開かれ、日本側から洞・国土交通審議官らが出席し、来年は日豪交流年を迎えるため2006年の観光相互交流人口を100万人とすることで合意した。これを實現するため観光客の来訪地域の多様化に必要なプロモ-

ーション活動の実施、チャーター便の活用、若い世代の交流拡大、姉妹都市関係の活用に取り組むことになった。

### 来年の「海のフェスタ」は富山で開催

国土交通省は5月10日、平成18年の「海のフェスタ」（イタリア語で祭り）を富山県で開催することになった。「海のフェスタ」は「海の日」が7月の第3月曜なので、この時期にあわせて1週間ほど開く。

### 「民の活力で、来訪者を4000万に」

#### 横浜市が推進中

「オール横浜の取り組みで、3年間で観光客を350万人増やそう!」。横浜市では中田宏市長の号令で2003年4月に、『横浜プロモーション推進事業本部』（以下『事業本部』）が誕生し、財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー（『ビューロー』）と共に、さまざまな事業展開を行なっているが、『みなとみらい線』開業という追い風もあり、昨年一年間の横浜への来訪者は、3,819万人であった。計画期間1年を残す時点で成果を出せたことから、目標を4,000万人に上方修正してさらに意欲的な事業展開を目指している。

横浜の取り組みで注目を集めているのが、『横浜観光プロモーションフォーラム』。横浜の観光・コンベンションに携わる意欲ある企業、団体、市民事業者等で構成され、『オール横浜』での横浜プロモーションを推進するために民間主導型事業を創出している。2002年9月の発足時89だった会員も現在160を越え、民間事業者間での評価も高まっている。

ビューローはその事務局を担当し、会の運営や公募制のフォーラム認定事業への対応を行なっている。認定事業とは観光客増加のための具体的な事業案を民間から募り、フォーラムとしてお墨付きを与えるというもので、発足からこれまで46件の事業が展開されている。フォーラム会員相互の連携のためのビジネスマッチングの場も提供し、民間の、民間による動きとしてまさに『オール横浜で』の考え方が具体化したものと言える。

案件によっては助成金も付与されるが、全国的に地方財政が窮迫している中、「行政丸抱えの時代ではない。民間の知恵を借り、行政はコーディネイト役をする。」という中田市長の理念がいかされた好事例。

4月に行なった2005年の公募には30件の応募があったが、この中からまたどんなユニークは集客力のある事業が出てくるか、認定された事業がどのような化け方をするか、注目したい。

（ビューロー企画部 齋藤 冬美）

## 観・光・人・国・記

### スローライフ時代の観光を！

増田昌三・高松市長



1961年高松高校卒、早大第一法学部を出て高松市役所へ。2年間、助役を務めたあと1995年5月、市長当選。現在3期目。小中高とも高松という高松っ子。

全国区に育った讃岐うどんや、四国88ヶ所遍路の拠点として知られる香川県の県都・高松市。増田昌三市長は、将来の“四国の州都”を目指し、文化交流都市、国際・コンベンション都市構想を打ち出している。

もともと高松市は、宇高連絡船（宇野 高松）によって四国の玄関口として栄えていた。観光資源も豊富。天下の名園・栗林公園、源平合戦の那須与一で知られる屋島、また金毘羅宮までは高松琴平電鉄で結ばれ修学旅行の定番コースだった。

こうした観光地への入り込み客は、昭和末期には年間700万人近く、屋島と栗林公園で430万人を超えたこともある。ところが最近では、全体でも200万人そこそこに落ち込んでいる。新しい高松空港がつくられ、瀬戸内海に三本の橋、そして岡山から鉄道も乗り入れることで、お客は増えるはずなのに、逆の効果が出ているかのようだ。「**高速バスが約10分おきに関西方面に走っている。買い物は大阪・神戸で、という人も増えているようで、そういう意味では影響があるのでは**」と増田市長。

昔の夢を追いかけるだけではダメとみる増田市長は、屋島が大舞台の一つとなるNHKの大河ドラマ『義経』効果を当面は期待し、史跡巡りの観光バス「義経号」を走らせたりするが、中長期的には国際コンベンション都市を目指す。来年5月、国内外から一万人が参加するASPAC（アジア太平洋地域会議）高松大会の開催を機に、高松をアピールしたいと準備を進めている。

また、スローライフ時代にピッタリの遍路文化を全国に発信しようと、今年7月には東京で『四国観光シンポジウム』を4県4県都合同で開く。

「**世界の宝石**と称される瀬戸内海の景観、そこから獲れる魚の繊細な味、心安らぐ風土とおもてなしの心を、

PRしたい」と意気込む。

今年9月と来年1月には近隣の町と合併し、人口40万人の新高松市が生まれる。これらの地区には1250年前に行基が発見、弘法大師が広めたという

ーグの香川オリブガイナースの本拠地として、またサッカーJリーグ入りを目指した「高松クラブ」の誕生など、地域密着型のスポーツ振興によって集客も期待できそうだ。

「**いずれ道州制が実現すると思うが、地政を生かして四国の州都を目指し、そして国内外との交流人口を増やしていきたい**」と、増田市長の目は彼方を見据えている。

### 卓球世界一の女将がんばる



#### 『二蝶』の徳永尚子さん

高松市の老舗料亭

『二蝶』の女将・徳永尚子さんは、“別の顔”でも著名人である。

小学生時代の福原愛ちゃんとのツーショット写真に、その謂われがある。

この女将、実は卓球の世界チャンピオン。慶応大学卓球部員だった深津尚子さんは、1965年の第28回世界卓球選手権で優勝したのである。そして、同じ部の先輩だったご主人に、愛知県から嫁いできて、ざっと40年近い高松市民、というわけ。

そのうちに市内の卓球愛好者、ママさんピンポンの指導に駆り出され、1989年（平成元年）から香川県内を中心とした『深津尚子杯』争奪卓球大会を主宰することになった。いまま盛んに続いている。愛ちゃんが高松を訪れたのは、そうした関係からだ。

「で、愛ちゃんと試合しましたか」と聞くと、「やられました」とのこと。練習しすぎて膝を痛め、「当時の愛ちゃんには、まだ強烈なスマッシュはなかったのですが、こっちが打っても打っても、みな受けられる。根気負けしました」とか。

ちょっと“別の顔”を強調しすぎた。

本業の『二蝶』は創業60年近く、戦災に遭った高松の中では木造建築物としては「有形文化財」もの、現在申請中という。ただ、日本全国どこでもそうだが、官々接待自粛、企業交際費節減のありを受けて、バブル時代のように参らない。

で、ご主人と尚子女将が打ち出した戦略は、大広間を使っの結婚披露宴、仏事などのプライベ



## 年齢制限なしで楽しめるテニス（上）

### JN協会に同好会を スポーツと観光立国

サッカー、野球、バレー、テニス、ゴルフなど日本はスポーツの盛んな国だ。JN協会は5月にサッカーJリーグの鈴木チェアマンを講師に「サッカーと観光立国」をテーマに講演会を開くが、これを機に「スポーツと観光立国」シリーズを取り上げた。JN協会テニスクラブを作ろうと思いつながら。こども時代からシニアまで、年齢に制限なしの「テニス」（硬式）の魅力を上中下3回で紹介する。素人の私の体験をもとに用具・ルール編、基礎技術編、テニスの効用編の順に。

（事務局長 白澤照雄）

テニスの技術は奥が深い。それだけに面白いスポーツといえる。テニスは15、6世紀のころフランスの宮廷などで行われた「ラ・ポーム」というゲームが起源といわれ、その後イギリスで発展した。まずボール、ラケット、服装、コートを紹介すると、ボールには公認、練習ボールがあり、回転や圧力にしっかり反応すること。柔らかい毛の部分はボールの飛びを制御する役目がある。ラケットは用具の中でもっとも重要で、自分の体力、筋力、技量に合わせて購入する。重さは355グラムから375グラムで、あまり重いとボレーなどの処理に困るので、初心者やシニアは軽めのラケットを選ぶ。服装に規定はないが、男女とも白を基調にしたウェアが好まれ、シューズはかかとが低く軽いものがよい。



左から2人目が筆者

コートの種類は多く、これがテニスの醍醐味や奥の深さに欠かせない要件といえる。一般的なクレーコートは表面がクレー（荒木田土）のコートで、遠いボールを追走してリターンする場合、滑りながらのランニング・ショットが可能。土がクッションになって膝や腰にやさしい。表面が赤っぽいアンツーカー（焼成土）コートは関西やドイツ、フランスに多く、レッド・クレーともいう。ほかにグラス（天然芝）、ハード、オムニ（人工芝）、ラバー・コートがあり、コートによって打球の玉足が異なるので面白い。コートの大きさはダブルスが幅10.97m、縦23.77m、シングルスは幅8.23m、縦23.77mだが、ベースラインぎわでボールが跳ね上がるトップスピンやロブのリターンにはコートの周りの余裕が必要だ。

正式な試合は男子が5セット（1セットは6ゲーム、タイブレークあり）・マッチ、女子は3

セット・マッチで行われるが、同好会などの練習試合は6ゲーム（1ゲームは4ポイント）先取で勝ち負けを決める場合が多い。ポイントの名称は0点：ラブ、1点：フィフティーン、2点：サーティ、3点：フォーティ、4点：ゲームで、双方が3点の場合はジュースとなり、2ポイント先取で決着をつける。次回は基礎技術編を。

### JN観光情報協会は消費者啓蒙の団体へ ネット活用でコミュニケーションを

写真家で、当協会の個人会員でもある森 一六正（ひろまさ）でございます。初めて投稿します。

写真家の立場として私は、旅行、観光の一消費者であると存じており、この協会は旅行、観光産業の生産に役立つ情報を幅広く高度に、各分野を総合的に研究的に研究し提供している生産者の団体であると強く感じております。

隔月発行される情報（機関）紙にはあらゆるジャンルのサービスが網羅紹介されて、専門的技術を相互に理解し、活用することで旅行観光の生産性効率性の向上を図ってゆく、その情報を収集し発信し、相互の連関を計ってゆく団体であると理解している処です。確かになるほどと勉強にはなるのですが専門的で、私にとって実用性に遠いと感じています。

プロ写真家にとっての旅行は生産（撮影）活動の原価であり経費であり、消費でしょう。取材、旅行の斬新な立案、合理的な経費の計画、サービス活用の知識、人的交流による活動のスムーズ化、斬新な立案に役立つヒント、などの具体性のある情報が必要で欲しいです。

観光をする一般消費者にも「生涯の思い出づくり」に貢献できる情報を提供したいです。旅行、観光産業の生産に携わる業種も消費者のニーズもかなりの多種多様、広範囲を知ります。NPO法人 JN観光情報協会は消費者啓蒙の活動の具体化をお願いしたいです。

業者（売り手）の宣伝ではなく、非営利法人として客観的な情報の提供サービスを開始してはいかがでしょうか。インターネット活用などで、消費者とのコミュニケーションを事業の柱に加えていただきたく存じているしだいです。

「<http://forestclub.net>」で「女性写真のフォレストクラブ」をご紹介します。写真撮影を楽しみ、向上をお想いの方はぜひご確認ください。モデルと景観とを交えて撮影実習会をしています、真摯な会です。森が専任講師を務めております。

JN会員 森 一六正

観光立国推進に、あなたのご支援を！ JN協会

## JN協会4年の歩み

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、5年目に入り順調に活動を展開しています。第4回通常会員総会にあたり、これまでの歩みを振り返ってみます。

### JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も、官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり、都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこうした理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組み「賢い旅行者・消費者」の育成に務め、国や地方自治体、経済団体への提言も行い、成果をあげています。

### JN支部の設立

- ・新宿支部（2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長）
- ・北陸支部（2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長＝当時＝が支部長）
- ・立教支部（2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り。）
- ・九州支部（2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長）
- ・中部支部（2004年7月、須田寛・JR東海会長＝当時＝が支部長）
- ・神戸支部（2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長）



写真上（発足メンバー）下は（神戸支部発足総会）

### JN協会の活動実績（講演会）

- 第1回：「国際観光を楽しむ」 平成13年10月22日（月） 基調講演：向山秀昭氏（国際観光振興会長）
- 第2回：「都市の活性化と国際観光」 平成14年1月31日（木）  
講演者：須田寛氏（東海旅客鉄道会長）、カトリーヌ・オーデン氏（フランス政府観光局長）
- 第3回：「都市の交流と国際観光」 平成14年5月21日（火） 講演者：羽生次郎氏（国土交通省国土交通審議官）
- 第4回：「北陸新幹線と地域振興」 平成14年10月4日（金） 於：金沢市  
講演者：松尾道彦氏（鉄道建設公団総裁、当協会副理事長）
- 第5回：「内外経済事情」 平成14年11月21日（木） 講演者：渡辺 修氏（日本貿易振興会理事長）
- 第6回：「激動する航空業界の現状と今後」 平成15年5月30日（木） 講演者：野村吉三郎氏（全日本空輸会長）
- 第7回：「江戸文化と大道芸」 平成15年 8月10日（日） 於：新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト：  
片山文彦氏（JN協会新宿支部長）ら4名。
- 第8回：「観光立国と箱根の魅力」 平成15年9月4日（木） 基調講演者：中村徹氏（日本観光協会会長）  
討論者：山口昇士（箱根町長）、金澤悟（国土交通省観光部長）  
福川伸次（電通顧問）の各氏。
- 第9回：「九州新幹線の開業に向けて」  
平成16年3月1日（月） 於：ホテル日航福岡 講演者：高山博文氏（鉄道運輸機構九州新幹線建設局長）
- 第10回：「日本経済の再生と観光立国」 平成16年5月27日（木） 講演者：福川伸次氏（元通産事務次官）
- 第11回：「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」  
平成16年7月15日（木） 於：名古屋市 講演者：平野幸久氏（中部国際空港会社社長）  
中村利雄氏（万博協会事務総長）
- 第12回：「観光立国と国の安全」 平成16年12月16日（木） 講演者：国松孝次氏（元警察庁長官、前スイス大使）
- 第13回：「21世紀は名古屋圏の時代」 平成17年1月25日（火） 於名古屋市・銀行協会ホール  
基調講演：福川伸次氏  
パネラー：奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏



## JN協会4年の歩み

### JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回：山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日（木）  
JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、  
時速450キロを体験。
- 第2回：東京電力柏崎刈羽原発など。 平成14年8月24日（土）、25日（日）  
参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回：石川県・能登空港 平成15年7月8日（火）  
7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら  
10名が参加。
- 第4回：都留市リニア実験センター 平成15年10月8日（水）  
松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。  
時速500キロを体験。
- 第5回：横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日（水）  
2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回：九州新幹線（鹿児島中央駅～新八代駅） 平成16年3月1日（月）  
3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試  
乗会に参加。
- 第7回：開港前の中部国際空港 平成16年7月15日（木）  
松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回：建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。



リニア実験線



開港前の中部空港管制塔で

### JN協会の活動実績（イベント）

**【大道芸シンポ】** 2003年8月10日午後5時30分から、江戸開府400年事業に協賛し「市民 手づくりの江戸東京 まつり」を、東京・新宿の花園神社で開催。源吾朗さんの大道芸披露、今村昌平監督の映画「ええじゃないか」のさわりを上映、それにまつわる大道芸についてシンポジウムを落語家・古今亭菊輔さんが司会。100人が参加し江戸情緒を楽しんだ。

なお8日には、ロボット博士で有名な橋本周司・早稲田大学教授の講演「ロボットが宗教を変えられるか」が行なわれた。主催は花園神社。

**【国際交流】** 2004年10月23日、JN協会と富山県新湊市がイタリアのティボリ市長と助役招待、新湊市での「新湊産業海鮮まつり」に参加、保育園児らに迎えらる。真ん中は新湊市長。



2004年10月25日、東京・プレスセンターで「ティボリと新湊の挑戦」と題する国際観光シンポジウムを開催した。マルコ・ヴィンチェツィ・ティボリ市長、分家・新湊市長、須田・JN協会副理事長、鷲頭・国交省観光審議官、大島悦子の各氏が「イタリアの世界遺産都市と観光立国の街づくり」について討論。参加者約150人。

### JN協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。  
（1）「観光の価値・評価」の研究会 2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。 （2）「旅と危機管理」セミナー 2003～2004年末で9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官 を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。 （3）「観光立国セミナー」 2004年～2005年実施中。会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。 いずれも、製本しJN協会に保存。会員企業、個人会員の閲覧は御自由どうぞ。

### JN協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。丹羽理事長（当時）は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

## 「観光研究会」平成16年度報告書まとまる 「ツーリズムと危機管理」

JN協会の観光研究会16年度テーマとして実施した「危機管理セミナー」の報告書がまとまりました。（7ページ参照）

ツーリズムを取り巻く様々なリスクについて旅行業界、弁護士、ジャーナリストなど異なった立場の方々から、「どのようなリスクがあるのか」「どのように予防・対策を講ずべきか」「リスクに関する今後の課題は何か」などについて講演いただいた内容を取りまとめたものです。希望者は事務局まで申し出てください。

（内容は、次の通り。肩書きは当時）

### 旅のリスクマネジメント

JN協会理事 近藤節夫氏  
旅行会社における40年間の現場経験にもとづいた具体的なリスクマネジメントについて説明

### 観光とリスクコミュニケーション

JN協会副理事長 大島 慎子氏  
大手外国航空会社における客室乗務員、広報担当部長時代に体験した異文化間での認識の違い、事故対応の仕方について説明

### 危機管理と旅行会社の法的責任

弁護士 三浦 雅生氏  
旅行業界における著名な弁護士。企業に於けるコンプライアンス、旅行会社の法的責任にはどのようなものがあるか説明

### ジャーナリズム・報道から見た危機管理

トラベルジャーナル編集長 鈴木 清美氏  
ジャーナリストから見た旅行業界の危機対応について説明。またゲストに(株)西遊旅行、外ノ池社長を招きグアテマラ事件（現地人による日本人旅行者襲撃事件）の真相を聞く。

### 旅行会社の立場で見た危機管理

グラント サークル コーポレーション  
日本支配人 北村 崇氏  
元JTBワールド社長。JTB時代のリスク対応事例、広報のあり方等について説明

### 観光立国と国の安全

元警察庁長官 国松 孝次氏  
我が国に於ける治安の現状、観光立国としてあるべき姿を、スイスの例を挙げて説明

なお、観光研究会の平成17年度セミナーのテーマは、次の通りです。

1. 観光立国マーケティング活動  
（外国政府観光局の活動事例を参考にして）
2. インバウンド事業について  
（北村理事が開発している例を参考にして）
3. 観光税など観光立国の国の政策について  
（寺前理事の提言を中心として）

## 参加大歓迎

## 観光立国セミナー開催中

昨年9月講師丹羽会長を皮切りにスタートした「観光立国セミナー」は、講師陣の熱意と会員諸氏の積極的なご参加により本年4月迄で7回を数えるに至りました。

第8回、は6月15日（水）12時から東京・麹町の海事センタービルにて行います。

講師、スガツ北ア政府観光局アジア地区代表  
ソーレン レアスコウ氏

「スガツ北ア政府観光局の日本とアジアの観光マーケティングについて」

なお、今までのテーマは次の通り。（肩書きはいずれも当時）

第1回「我が国のインバウンド国際観光振興策について」

JN協会・会長 丹羽 晟氏

第2回「旅への想い入れ」

JN協会・理事長 松尾道彦氏

第3回「観光あれこれ」

日本貨物鉄道特別顧問 橋元雅司氏

第4回「観光基本法にの分析と課題」

日本観光協会理事長 寺前秀一氏

第5回「草津町の観光まちづくりについて」

群馬県草津町長 中澤 敬氏

第6回「NPOと観光振興」

元国際観光振興会理事 澤田利彦氏

第7回「ひとつのインバウンド業者から見た日本のインバウンド事情」

グラント サークル コーポレーション 日本支配人  
北村 崇氏

## JN協会、企画委員会を強化

副理事長は全員がメンバーに

JN協会は、理事会に代わる協議機関としての「企画委員会」（主宰・事務局長）を強化することにした。テーマによってはオブザーバーの参加を認める。原則として毎月の第2木曜日正午から東京・麹町の海事センタービルで開く。29名の構成委員は下記の通り。（敬称略）

理事長：松尾道彦、顧問：丹羽晟、事務局長：白澤照雄、副理事長：岡村進、橋元雅司、橋爪孝之、大島慎子、小竹直隆、須田寛、支部長：片山文彦、水野卓哉、長尾亜夫、岩田弘三、田久保万里夫

理事：加納隆、杉行夫、寺前秀一、分家静男、阿部和義、堤るり、山田早苗、近藤節夫、江川順一、北村嵩、出井猛、編集委員：前隆、満田潤子  
個人会員：大島悦子（イタリア専門家）、井上嘉世子（アメリカ専門家）。



## トレードショー「パウワウ」開く パウエル前国務長官がスピーチ

第37回インターナショナル・パウワウが5月3日から7日までニューヨークで開催された。

パウワウは世界各国の旅行業界の人たちを集めて開催されるトレードショーで、一般には公開されていない。今年は世界70カ国から約5,500人が参加した。航空会社、ホテル、アトラクション、観光局などのサプライヤーのブースをバイヤーが回って商談を進めるもので、20分のビジネスアポイントを3日間で最大44とることができる。この間に300億ドルの商談が成立するといわれる。

この開催都市は毎年変わる。2004年はロサンゼルス、2006年はオーランドと今後5年にわたる開催都市が決定されており、ホスト・シティにとっても大きなメリットのあるイベントである。

昼間のビジネスだけではなく、開催都市が主催する夜のイベントもまたパウワウの大きな特徴。今年はロックフェラー・センターやタイム・ワーナーなどマンハッタンの代表的な地域がイベント会場となった。建物の内部だけではなく、街路にも飲み物や食べ物のカウンターが並び、参加者は自由に飲食を楽しむことができる。最後の夜の会場は、自由の女神像を望むエリス島。ヨーロッパからの移民の窓口となった島である。ここでは自分自身のルートを探ることもでき、ある参加者は『私のおばあさんは25ドル持って、ここからアメリカに移民してきたことがわかった』と感動の面持ちで話していた。



その最終日のランチ・スピーカーとして登場したのが前国務長官のコリン・パウエル氏。国務長官時代の外交の話を変えながら国際関係の構築における信頼と忍耐の重要性を説き、さらに旅行の持つ力について語り、聴衆から大きな拍手を得た。

日本からアメリカへの旅行者は2004年に対前年18%増となり、復活の途にある。こうしたトレードショーを通して、新しい情報を提供し、ネットワークをさらに強固なものにしていくことがアメリカへの旅行促進の一助となるであろう。

JN会員 井上嘉世子(TIA日本代表)

## 江戸城再建」を『週刊新潮』が取り上げる

JN協会副理事長の小竹直隆氏中心に推進している「江戸城再建」問題が、『週刊新潮』5月19日号で取り上げられた。4月30日に開いた第一回「江戸城再建を目指す会」を取材、紹介した記

### 立教支部長に田久保君

JN協会は5月24日の通常総会で、立教支部の本田雄三支部長の後任に、同大観光学部4年の田久保万里夫君を選任する。理事にも就任する。また4年生の正和泉さんが補佐役を務める。

## C O L U M N

### 「生」と「本物」

近年本物志向の風潮のせい、本物でなければダメという贅沢な声を、しばしば耳にする。にせものや、まがい物より本物に越したことはないが、本物志向のあまり、いい加減な本物や、本末転倒の事象が目につく。

最近TVでよく見かける言葉に「生中継」とか、「生出演」がある。前者について言えば、どうも実況中継をそう呼んでいるらしいが、どうして単に「中継」だけではだめなのか。「生中継」と「中継」の違いは何だろうか。「生中継」が実況だとすると「中継」はどうなのか。「中継」が生より古い(前の)録画中継だということになると実際の「録画中継」の立場?はどうなってしまうのか。後者の「生出演」にしたって、目の前にいる人を前にして「生出演」というのは、表現としては些か品がない。これだって「出演」で充分だと思う。どうも生鮮食品の「できたて」「とれたて」「旬」のイメージに毒されている感じがしてならない。「生」「純生」はビールだけで充分だと思うのだが・・・。

視点は違うが、アメリカのスクールバスは、ほとんどの州で「生」というか、直にものを見るよう教育指導されている。左右の確認は遮蔽物なしにドライバーの「生」の眼で行うことが「マニュアル」によって決められている。ドライバーは、鉄道踏切では必ず一旦停車し、左右を自分の両方の眼でしっかり確認する。ガラス窓越しの確認は遮蔽物を通したものと考えられ確認したうちには入らない。そのためバスは停車して扉を開け、開いた乗降口を通してドライバーの眼から直に列車の接近を確認するのである。随分手間のかかる確認だと思うのだが、これによりスクールバスの踏切事故は皆無だという。面倒だが、こういう初歩的な安全対策こそが、本当は「生」で実効を上げるということなのだろう。

(近藤)

## お得な情報

### 旅情報

#### 道の駅 熊野きのくに

「JAPANNOW」誌2005年  
度版が完成し、特集で  
熊野を取り上げている。  
人と神々が出逢う国のタ  
イトルどおり散策してい  
てなかなか神秘的である。  
熊野の道の駅は国道42号線沿いにある。



生産直売の木工品や那智黒石、みかん、干物など販売し、おすすめ料理は、サンマ寿司とメハリ寿司。屋内は桧の香りいっぱい心が安らぐ。営業時間は7～22時。

年中無休。問い合わせ先：電話0597-84-1192。

#### ヒルトン大阪・ヘルシーチャイナ

6月に入ると、ホテルでも夏バージョンのイベントが始まる。大阪のヒルトン大阪3F中国料理「王朝」では6月1日から夏のメニューが用意される。

冬瓜など夏野菜や、ヘルシーな食材を厳選して「王朝」料理顧問の鄧廣寛が夏ならではのランチコースを提供。「フカヒレスープ瓜入り」「冷やし麺王朝スタイル醤油ソース」などがメニューに盛り込まれ、料金は5,659円(税・サ含む)。

期間は6月1日～7月31日。時間は11時30分～15時(14時30分ラストオーダー)。予約・問い合わせは、06-6347-0310レストラン予約。(堤 るり)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

## JAPAN NOW

1985年に創刊され、ホテルオークラ、帝国ホテルなど全国のシティホテル110館約50,000室の客室に常備されている日米対訳の文化情報誌です。

2005年度版は編集・デザインを大幅に刷新。表紙は気鋭の合羽刷(版画)師、西岡文彦氏による作品としました。英文も基本的に全文対訳とし、学校教材としてもより利用しやすくなっています。



特集では、世界遺産に登録された「熊野三山」に焦点を当て、歴史・風土・文化、そして現在の姿を、豊富な写真を中心に紹介しています。

さらに、木村尚三郎氏による巻頭メッセージ、金子務、鎌田東両氏による特集エッセイは、これまで以上に読みごたえのある記事となっています。

1部2,000円(送料別)で購入できます。

お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。

電話03-3465-5826 FAX03-3465-5254

### 「日本で見つけた 世界おいしい物語」

#### フィッシュ バンク トーキョー

再開発が進む汐留の超高層ビルの41階にある。東京の夜景を楽しむ客が集う。木組みの天井からシャンデリアが下がるティンバーホールは、禁煙のダイニング。その他にもバーラウンジでは、ジャズの演奏もある。

東京に数ある高層ビルのレストランでは、自然な食材をスタイリッシュな雰囲気を楽しめるという点で秀逸である。世界各地の素材や調理法を採り入れた現代的な、グローバルフレンチと呼ばれる料理が提供される。

例えばキタアカリという品種のじゃがいもで、古典的な手法で作ったポタージュに、ゼリー状のビーフコンソメをのせた2層仕立てのフープ、また、常盤産スズキのポワレでは、香りと旨みが強い旬のスズキには赤ワインのソースをあわせるなど、「魚には白ワイン」という常識を破り、意表をつくメニューが並ぶ。

シェフの井沢正悟氏は、90年代にアメリカで修行してオーガニック野菜に目覚め、帰国後もオーガニックレストランのシェフを務めて、地元の食材を生かす調理法を確立したという。フィッシュバンクといっても肉類もメニューにあるが、メインの食材はやはり魚介類と野菜の組み合わせである。必ず産地が明記され、シェフが選りすぐった素材を選んだこだわりが分かる。

シェフは素材を提供する生産者とコミュニケーションを欠かさないそうだ。

ディナーメニューは7000円から。

ランチもあるが、雰囲気としては夜景を楽しむ夜がお勧めである。

東京都港区東新橋1-5-2

汐留シテイセンタービル41F 電話03-3369-7171

営業時間 ランチ11:30-15:00、ディナー17:00-23:30 ラストオーダー22:00.年中無休。

(大島 慎子)

#### [会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階  
JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)  
へご連絡ください。

#### 会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2005年7月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2005年7月20日。締め切りは、7月10日。



## NPOから提案します

### ジャパンナウ観光情報協会への期待 その20

#### 「観光と税金(1)」

JN協会理事 寺前秀一

観光は遊びではないという意見もありますが、税制からみるとこれまでは奢侈的にとらえられていました。大正時代には県や市町村は料理店等における遊興・飲食等に対して、遊興税、歓興税を課税していました。その後、支那事変の戦費の一部を調達し奢侈的消費を抑えるためとして、通行税及び入場税を設置するとともに、この遊興飲食税を国税に移管しました。昭和15年芸者の花代には20%、その他には10%（終戦直前は芸者の花代300%、遊興飲食100%）課税されていました。

戦後、地方財政の自主強化を目途としたシャープ勧告に基づき、再び地方税に移管されましたが名称は「遊興飲食税」と奢侈的にとらえられていました。25年から27年までは接客人税も設けられ芸者、ダンサー等は一人一月について百円を市町村に収めることとされました。遊興飲食税は昭和36年に料理飲食等消費税に改称され、ようやく遊興の文字は消えました。

平成元年消費税導入に伴い、入場税と通行税は廃止されましたが、料理飲食等消費税は特別地方消費税として存続しました。都道府県にとって重要な財源であったからですが、源泉徴収を行う宿泊、飲食業者は二重課税であるとして廃止運動を展開し、平成11年度限りで廃止されました。日用品にも課税される消費税の導入は日常と非日常の

相対化を表す一つの現象ととらえることが観光協会等にも今なお基金として積みたてられており地域の観光事業振興等に活用されています。特別地方消費税は都道府県の普通税であったことから、政治的配慮もあって、飲食・旅館業の係る観光事業、環境衛生事業の振興を図ることを目的に、都道府県から都道府県の観光協会及び環境衛生振興センターに対して補助金（観光に関しては平成4年度から11年度の8年間で総額約200億円）が交付されました。これらの補助金は日本観光協会等にも今なお基金として積みたてられており、地域の観光事業振興等に活用されています。

### 今夏から熱海の海岸も禁煙

#### 観光客に上質な砂浜をどうぞ

尾崎紅葉の小説「金色夜叉」ゆかりの「お宮の松」の前にある熱海サンビーチ（海水浴場）が、今夏から禁煙になる。熱海市は3月の市議会に「市路上等喫煙防止条例」を提出し、6月26日の海開きから実施するが、対象となるのは熱海サンビーチの長さ約400メートル、幅約60メートルで、砂浜は全面禁煙へ。同市が昨年行った砂浜6カ所の調査で18万本のたばこの吸い殻が埋まっていたという。浜辺の禁煙で観光客が減るのではないかと心配する向きもあるが、「禁煙は時代の流れ」と踏み切ることした。ただしビーチわきに喫煙場所を設ける。ちなみに海水浴場の禁煙は「鳴き砂」で有名な京都府京丹後市の琴引浜など数少ない。

### イタリア観光通信 その22 ~パン~

イタリアで食事というと、何よりもまずパンが出てきます。パンのない生活なんて、考えられません。材料、味付け、形、焼き方と、イタリアのパンの種類は数千種に及ぶと言われています。地方色豊かで、その土地の料理にも良く合っています。南北の経済格差はパンにもあらわれているのか、パンだけでおなかをふくらませるには、南のパンのほうがおいしいような気がします。水と粉だけで作ったトスカナ地方のパンは、それだけを食べるとまるで味気のないものですが、地元の塩気の強いお料理といっしょに食べると納得がいきますし、良質のオリーブオイルの味見にも活躍します。

多くのパン屋では今も薪（たきぎ）釜でパンを焼いていて、ごろごろとした外側が石のように固いパンや、亀の甲羅のようなパン、やわらかいアラブ風のパン、胡麻をまぶしたシチリア風など、素朴なパンが、無造作に並べてあります。大きい

パンは、小さく切り売りもしてくれます。ふつうの食料品店でも、その日にパン屋から届けられる新鮮なパンを売っています。

レストランでは、注文よりも先にパンが運ばれてきます。パン皿が出されることはまずなくて、かごから取ったパンは清潔なテーブルクロスの上に直に置きます。お皿に残ったソースやスープをパンに吸わせて残らず平らげるのは、あまり上品なこととは考えられていませんが、家庭ではよくやることです。また、固くなったパンは、スープに入れたり、水でふやかしてトマトと和えたりして残らず使います。フィレンツェの郷土料理、リポッリータ（再び煮るという意味）は、野菜とパンがたっぷり入ったトマト味のいわばお雑煮で、栄養満点、なにより食べ物を大切にするイタリア人の気持が伝わる一皿です。

JN会員 満田潤子



イタリアの食料品店で

## 観光立国の花を咲かせましょう！

### 花咲かシニアの入会を歓迎します

#### 岡村 進 (JN協会副理事長)

春爛漫の平成13年の3月、東京都から予想より早くNPOの認可を受けた。カネも無く、事務所も無く、ただ理想だけは高く観光立国時代を先取りしようと開業準備に大騒ぎしていたのを思い起こします。幸い丹羽前理事長をはじめ発起人メンバーの活躍でNPOの形が整い、代々木に拠点ができ、4年が経ち、新宿支部など6支部、支援企業100社、会員200名を数える組織になり、爛漫の兆しがみえてきました。



以来、数々のシンポジウムや研究セミナーで勉強してきましたが、真の提言実行集団として社会に認知される協会としては今一步のところ。協会には、観光立国に強い関心を持つ元役人、庶民感覚溢れる元企業戦士進など多士済々の人材がおられ、日夜議論を重ねているところですが、観光税の問題からインバウンド事業まで

観光立国産業の奥は深く、多数の新たな人材の参加が待たれるところです。

堺屋太一氏のいう、団塊の世代が2007年に定年を迎え、近い将来の消費経済の担い手になるという。私は21世紀のグローバル時代の観光立国を実現するには、豊かな時代の生活の楽しみ方を、日本の国の良いところを知って育った、知識と体験の豊かなこのシニア世代の多くの人々がキーパーソンだと思っています。

「ジャパン・ナウ観光情報協会」がその名のとおり真に観光立国に役に立つ情報を発信するには、豊かな知識と体験と哲学を持ったシニア世代の人達が観光立国について、旅行や交通や国土や環境の問題も含めて議論を活発に重ねることができる、協会の風土づくりが今こそ大切だと思っています。幸いこの協会は勝手連で自由闊達な意見交換できる風土を楽しむ人達の集まりです。この協会では、豊かな知識と体験を生かして、観光立国の種を蒔いて、「花咲かシニア」になることができるのです。春爛漫の今、多くの「花咲かシニア」の皆さんのご入会を歓迎します。

#### 会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は別刷ご参照)

- 理事長** : 松尾道彦 (日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁)  
**顧問** : 丹羽晟 (前理事長、日本空港ビルデング相談役)  
**副理事長** : 白澤照雄 (JN協会事務局長)、岡村進 (小田急電鉄顧問)、橋元雅司 (日本貨物鉄道特別顧問)、橋爪孝之 (株)JALUX相談役、大島慎子 (ドイツワイン基金駐日代表)、小竹直隆 (元JTB専務)、須田寛 (東海旅客鉄道相談役)  
**支部長** : 片山文彦 (新宿支部)、水野卓哉 (北陸支部)、田久保万里夫 (立教支部)、長尾亜夫 (九州支部)、須田寛 (中部支部)、岩田弘三 (神戸支部)

#### 団体会員】2005年5月24日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、(株)伊勢丹、(株)エスシー・マシーナリ、(株)大林組、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、関西空港ビルディング(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、五箇村(島根県・隠岐の島) 国光施設工業(株)、佐川サポートサービス(株)、三協アルミニウム工業(株)、(株)三普旅行社、清水建設(株)、(株)ジャルセールス、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)新菱冷熱工業(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、総合パーキング建設(株)、第一交通産業(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、中部電力(株)、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタンツ、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、ネスレジャパングループ、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、ホテルマリックス、マイナミホールディングス株、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(学)森谷学園、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

#### 特定非営利活動法人(NPO)

人の心を繋ぐ、未来を創る、それが私たちの使命です！

## JAPAN NOW

### 観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)95

発行人：白澤照雄 (JN協会事務局長)

編集長：加納 隆 (JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

#### 編集後記

JAPAN NOW観光情報協会が、NPO法人として発足して4回目の通常総会。5年目に入ったことになる。で、今月は総会特集号としてスタート以来の講演会、イベント、見学会、研究会などの活動を振り返ってみた。ボランティアばかりの集団で、よくここまで、と歴代理事長、事務局長はじめ会員の皆さんの熱意に頭が下がる。

会員諸氏のサポートにも改めて感謝したい。協会の売り物の一つ、毎月の研究会の講師を、無料で買って出て下さる。数冊の本になるほど、記録が溜まった。また、情報紙の目玉でもある『観光人国記』の市長、女将インタビューも、会員の原清昭さんをはじめ友人らの紹介が無ければ、編集長の手に残っていたかもしれない。「ありがとう。これからもよろしく」と申し上げたい。(加納)